

1 中之口先人館



2 岡村佐久一さん



岡村 佐久一 〈おかむら さくいち〉

- 1956 新潟市西蒲区仁箇に生まれる
- 1975 新潟県立巻高等学校卒業
- 1979 国立宇都宮大学工学部卒業

3 岡村佐久一さんが絵を描いている様子

岡村 佐久一 〈おかむら さく

- 1956 新潟市西蒲区仁箇に生まれる
- 1975 新潟県立巻高等学校卒業
- 1979 国立宇都宮大学工学部卒業
地元企業の就職
- 1984 結婚
全日本空手道連盟二段取得
- 1994 交通事故で首を骨折し、手足の自由を失う
- 1995 口に筆をくわえ、文字を書き始める
- 1996 口に筆をくわえ、絵を描き始める
- 1997 2年6ヶ月の入院生活を終え退院

〈主な活動〉

4 岡村佐久一さん略歴

ご来場の皆様へ

先人館での展示に

お越しいただき

ありがとうございます

やる意味も分からずに

始めた口は筆ですが

とても大事なことに

日々の出会いに

季節を見つけては

草花風景などを描いて

ただこの体での

思いつきでだわりは

誰かに厄介や負担を

かけること

そう分かりつつも

また頼んでいます

そして迷いながらも

今日を大切に

感謝しながら

絵を続けていこうと

思います

みまきま

つたない絵ですが

どうぞごゆるりご覧下さい

令和三年十月

岡村佳子

5 ご来場のみなさんへ

心への点火は魂の燃焼によらねばならぬ

初意誠意創意

心への点火は魂の燃焼によらねばならぬ

あり先輩であるが親兄弟や

友との縁合もあるうー書物に

触発されることもあるだろう

しかし何と云っても海人の

主役は上司である。

点火するには上司が心加熱を

燃やさなければならぬ。

心を燃やさなければならぬ。

4.20

6 「初めて書いた字」

初めて書いた字

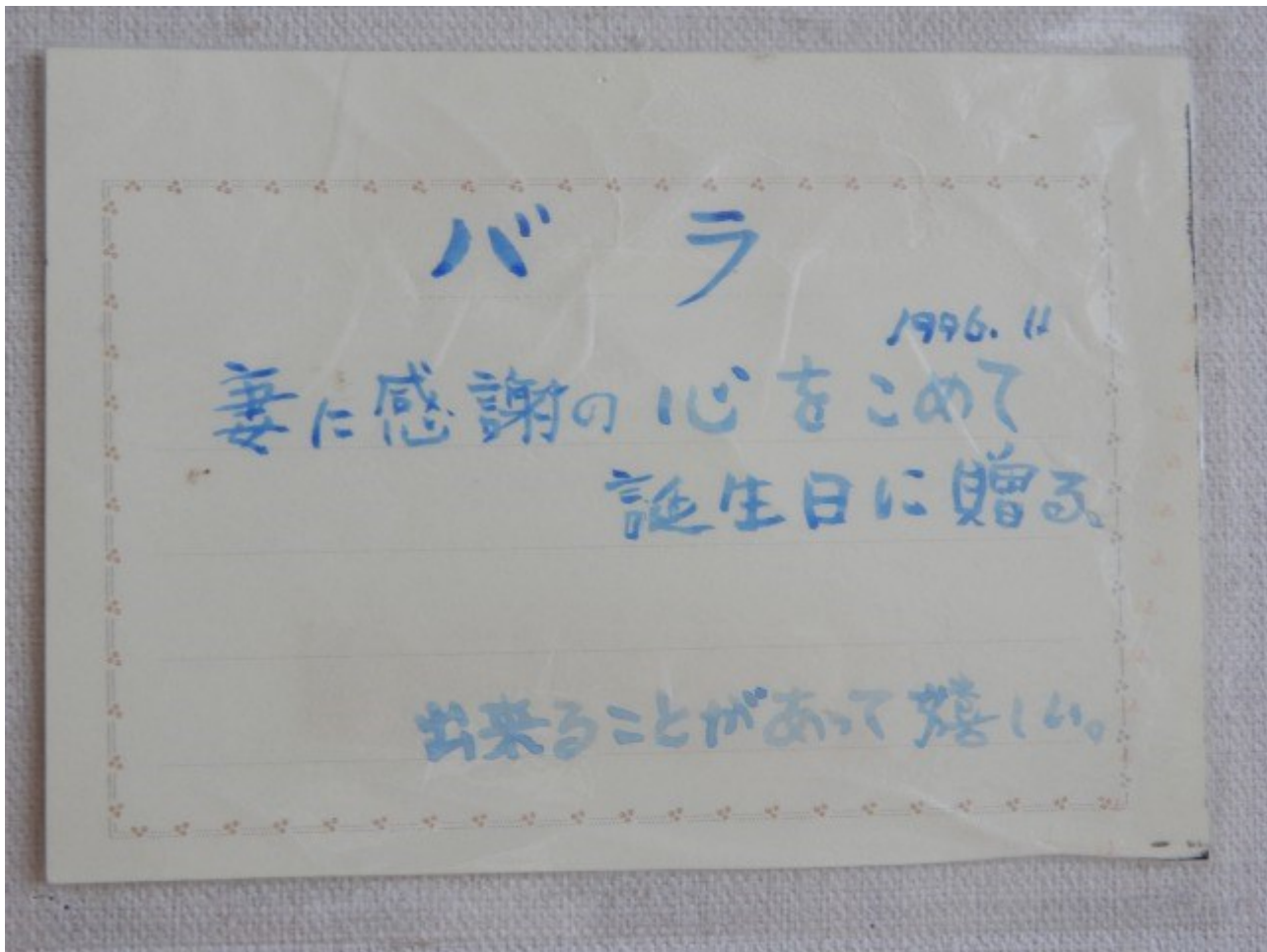
1995.9.

一度だけ水筆で試したことがある
筆の丸い柄をそのままかんで書いてみた
どうにも、こうにも重みがない、震える。
しばらく気が起きなかつたけど、
とうとう始めることになった。まず線が

7「初めて書いた字」のコメント



8「バラ」



9「バラ」のコメント



10「娘へ」

娘へ

1998.12

ウルサク言うが解かすたい。
困った時には伝えてほしい。
出来る事などいくつもふいだが、
全て出来ないわけじゃない。いいな
クリスマスのプレゼントとして何年ぶりか贈る。

11「娘へ」のコメント



12「二本の桜」

二本の桜

上堰 湯
2013.5.26

田んぼの道の傍に寄り添う
ように、支え合うように称え合う
ように見える二本の桜の木が
ある。遠くからは一塊に見え
たうす紅色。先輩の写真で
見上げる氷状でした。

13 「二本の桜」のコメント



14 「春・生き生き上堰湯」

春・生き生き上堰瀧
春は菜の花、夏のヒマワリ
秋にユスモス、冬には白鳥
四季折々の見どころが23年
自然とふれ合える憩いの場
になっている。(2001年4月～
2015年7月まで春商工会ポストカード
のデザインに使われ、3万枚発行)

15 「春・生き生き上堰瀧」のコメント



16 「巣立ちの前・すずめ」

巣立ちの前、すずめ

秋の小枝ですずめがチュンチュン、
巣立ちに向けて親鳥が舞う。
エサのとり方、身の守り方などを示して
いるのだろうか。子スズメにその意は
届いているのか？ 親の背中か！
俺の背中はどうしよう…
示せなくても…伝えることは
できるがもしれない

17「巣立ちの前・すずめ」のコメント



18「平和を祈る」

平和を祈る(長岡の花火)

2011.8.16

慰霊の白い大輪、中越大地震の
翌年に誕生した「フェニックス」
音楽と花火がひとつになって目と耳…体と心が心地よい
慰霊(追悼)復興、感謝、平和を込めて

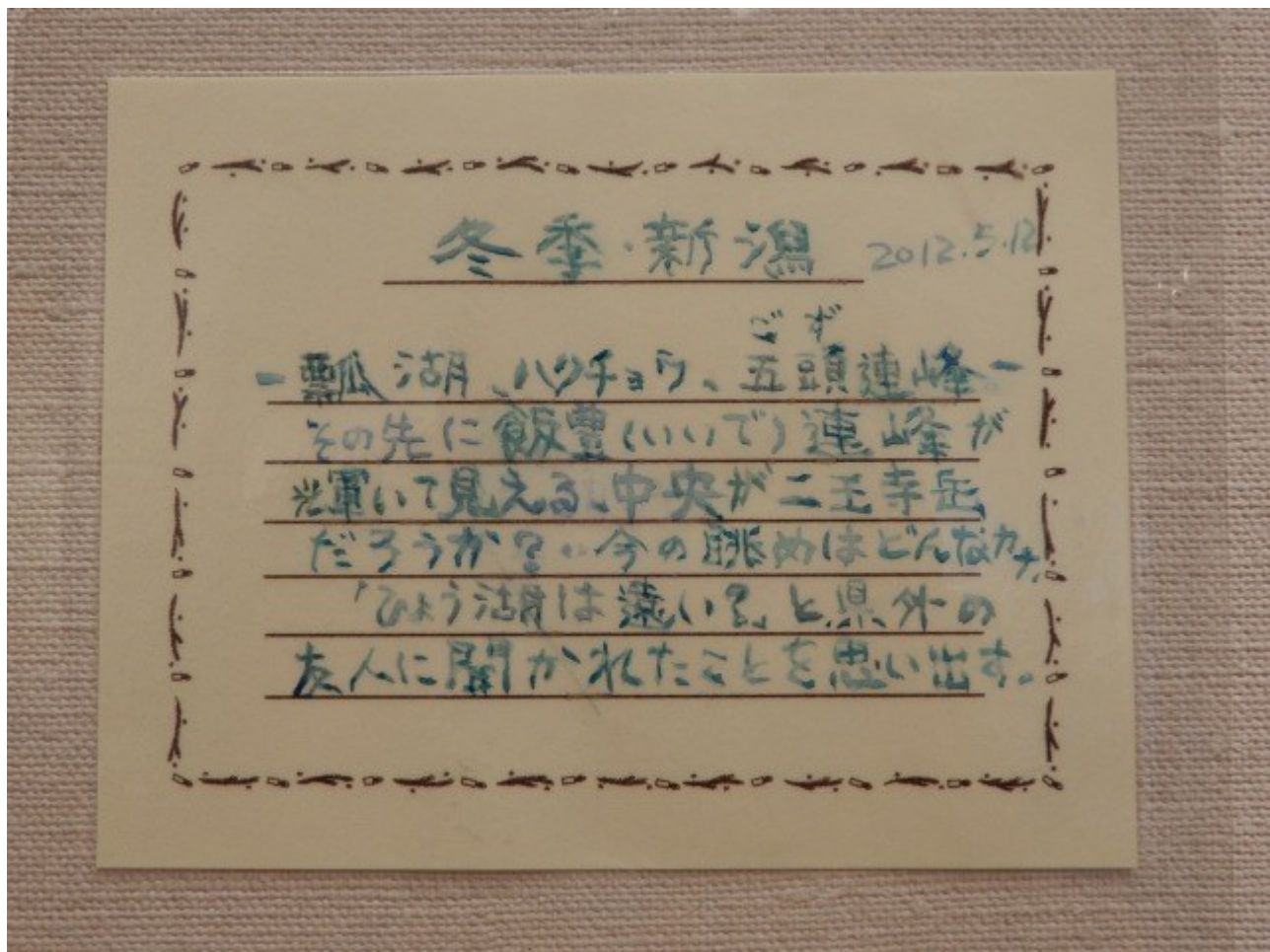
19 「平和を祈る」のコメント



20 「青空のコスモス」



21 「冬季・新潟」



22 「冬季・新潟」のコメント



23 「温もりのイルミネーション」

温もりのイルミネーション 2021.1.31

駅南口を出ると冷たい空気が身に刺さる

南へ向かえば幻想的な光のトンネル

オレンジ色の光が
温かく包んでくれた。ふるさとの駅はホッとする

けやき通り NIIGATA光のページェント

24 「温もりのイルミネーション」のコメント



25 新潟福祉文化を考える会メンバー